



アナルティック

ADULTS ONLY

[HTTP://BUTAGOYA69.BLOG111.FC2.COM/](http://BUTAGOYA69.BLOG111.FC2.COM/)

[MOND.KMGW@GMAIL.COM](mailto:MOND.KMGW@GMAIL.COM)

きょうゆう出版 様

ぶたごや

BUTA GOYA





えっ…？



大切な同盟国の王女様だぞ！  
そのような顔をしたら  
失礼ではないか…！

アイシス！

こらっ！

こらっ！

うわあ…

赤ちゃんでも  
ないのに…

最低…っ



ウソでしょ…

なによあれ…



同盟国である我がエーデルランドへ  
より一層の同盟強化を訴えに  
お越しになられたのだ

夫である国王陛下をはやり病で  
亡くし、国内の情勢が不安定に  
なられたそうだな…



不服か？

これはリュート国王が  
お決めになられたことだ

え…っ

リュートが…



こら！アイシス！  
聞いておるのか？

あ、はい…

まったく…

え…？

そこでだ…

王女様が御公務を行う間  
おまえに王子のお世話を  
頼みたいのだ

お待ち

ください…

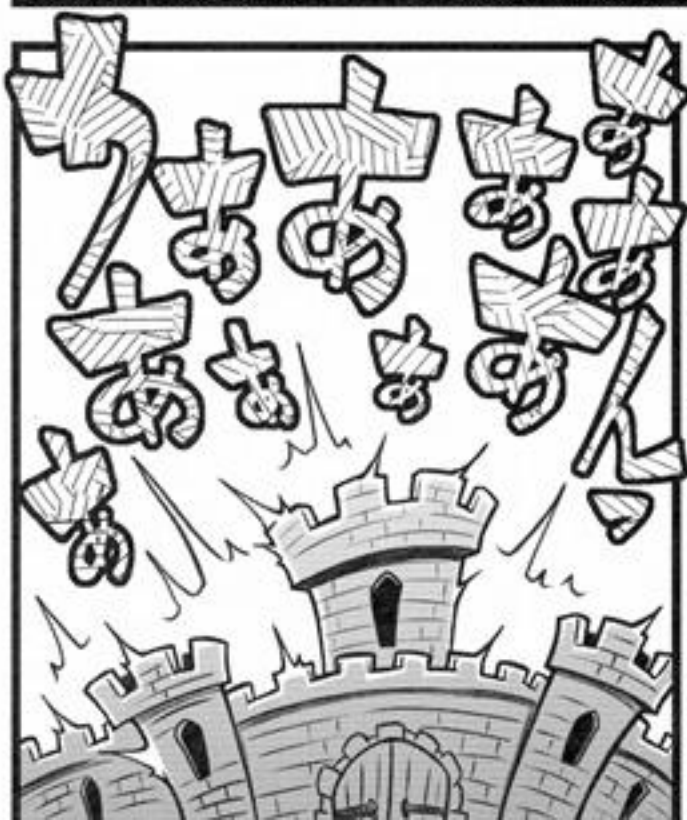
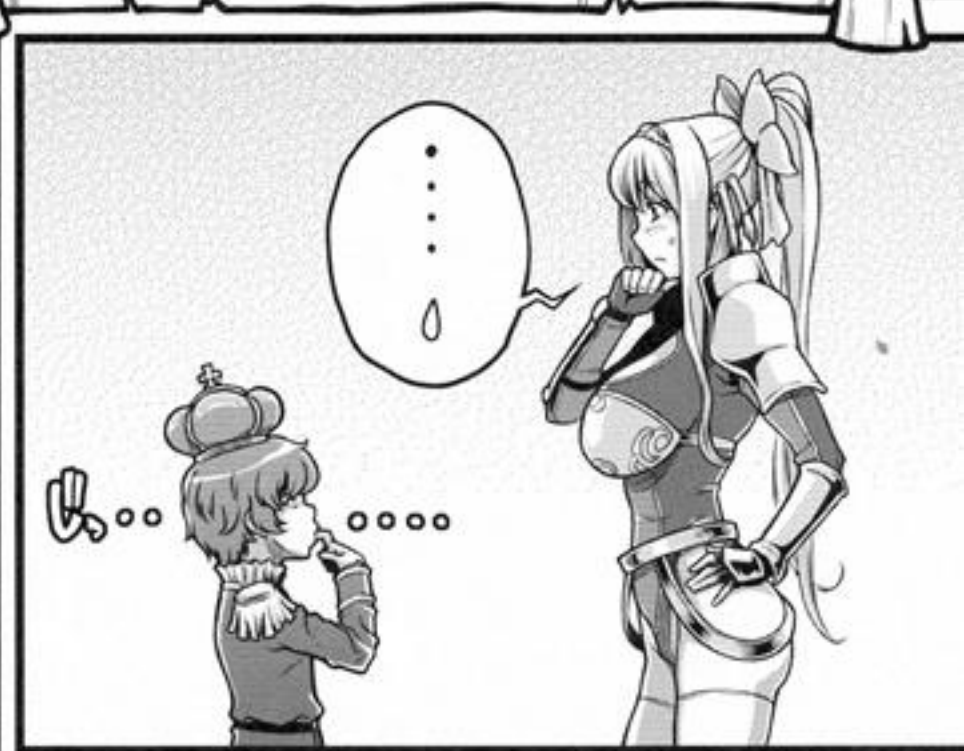
なぜ親衛隊の私が？

護衛ならまだしも…  
そんな子守のような…



無事エーデルランドの国王となったリユートだったが、アイシスとは結婚せずに他の女性達と結婚してしまった…

妻同然の扱いを受けていたアイシスだったが、やはりどこかに不満を抱えながら、それでもリユートのそばにいたくて、親衛隊として日々を過ごしていた…





ちよつ…

なんて声  
出すのよ…!

静かに  
しなさい!

やだやだやだ!

おっばいくれなきや

もつと大声出しちやうよ!

お姉ちゃんに酷いこと

されたって叫んでやる…!

たすけてーっ!

お姉ちゃんに殺されるー!

わかった…っ

わかったから…!

おっばいあげるから…  
おとなしくしなさい!

ホント?

たた



うっ…

まったく…

なんで私が  
こんなことを…

おっばいは  
恥ずかしいから…

ほら…っ

カキ

リユート以外には  
見せたくないのに…

これで  
いいんですよ!

カキ

カキ





あった！  
あった！

奥のほうで  
硬くなってる！



うわ…

結構深いな…

どンドン  
指が入って…



これは…

ほじって  
探さないで…



クワ…クワ…クワ…



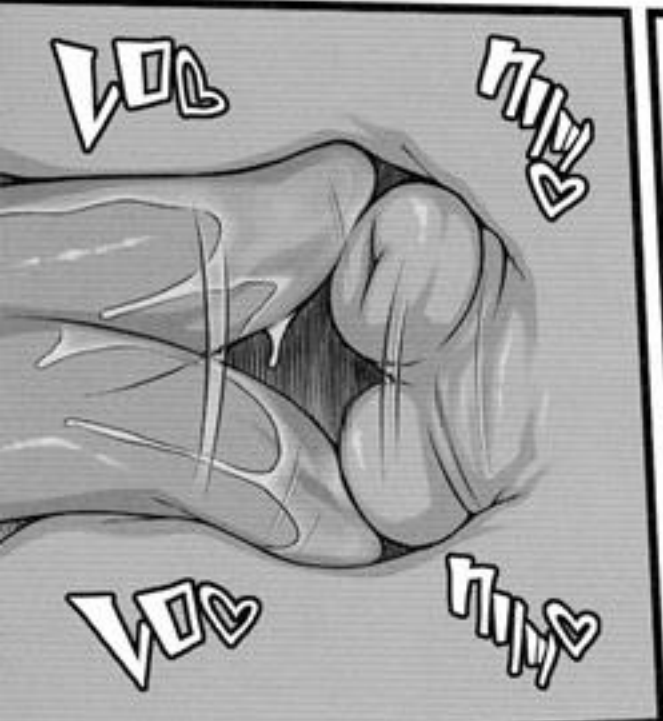
クワ…クワ…クワ…

あ…



口で吸い出せば  
顔出さかな？

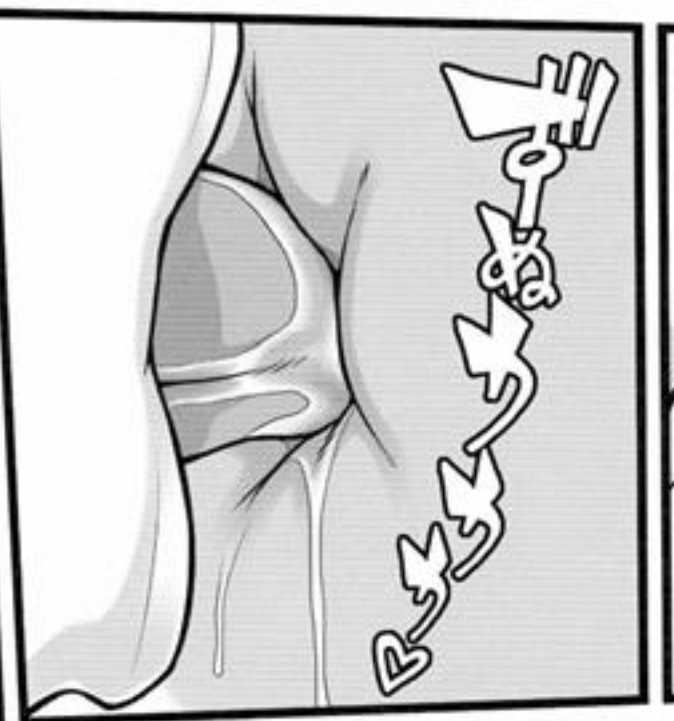
クワ…



クワ…クワ…クワ…

クワ

クワ



ちゅ…ちゅ…ちゅ…



ちゅ…ちゅ…ちゅ…

あ…



うわあ…  
だ、だめ…っ

クワ…クワ…クワ…

普段隠れてて  
凄く敏感なのに…  
そんな強く…っ



んっ

クワ…クワ…クワ…

クワ…クワ…クワ…



ほらあ  
お姉ちゃんも  
ちゃんと見てよ

お姉ちゃんの  
勃起乳首!  
顔出すと結構  
デカいんだね!

でた〜!

んっ!

んっ!

んっ!

ああ...

んっ!

いやあ...

んっ!

んっ!

んっ!

も、もお...  
十分でしょ...

なに言ってるのさ  
やつとお姉ちゃんの  
乳首が顔出したのにさ

これからもつと  
その乳首を堪能させて  
もらうんだからさ

ほら!

早く鎧をはずして  
こっちに来て  
ベッドに横になって!

えっ...

これで  
お終いにして...





ダメだよ！  
勝手に勃起させちゃー！



まだ穴乳首  
楽しんでる  
んだから！

お願い…  
いじわるしないで  
こっちも勃起  
させて…

なんだよ、嫌がったり  
今度は勃起させてって  
言ってみたり…  
わがままだなあ…

なんか勘違いしてない？  
お姉ちゃんが王子である  
ボクにご奉仕しないと  
いけない立場なんだよ

勃起してるのは  
お姉ちゃんの乳首  
だけじゃないんだよ

ボクのおちんちん  
だってほら！



次はお姉ちゃんが  
ボクを気持ちよく  
させてよ

ただしお姉ちゃんが  
ボクにご奉仕する  
場所はこっち  
お姉ちゃんの  
オマンコ！

えっ…

セックスだよ





ちよつ…  
なにバカなこと  
言ってるのよ!

それだけは  
絶対イヤっ!

なんでさ?

あつ、もしかして  
心に決めた人が  
いるとか?

わかった!

この王様だ!

えっ…

でも、それなら  
なんでお姉ちゃんは  
王様と結婚してないの?

それは…



ボク知ってるよ  
この王様って  
法律変えてまで  
魔族と結婚したり

他にも気に入った  
女を何人も妻に  
してるよね?

それなのに  
お姉ちゃんは  
違うんだね

ねえ、  
なんで?



ボクならお姉ちゃんを  
お姫様にするこただって  
可能だよ

ボクには  
その力がある!

ボクの母上だって  
今頃この王様と  
寝ているよ!

だってその為に  
この国に来たん  
だもん!

ねっ、  
だからお姉ちゃんも  
ボクとセックスして  
ボクの赤ちゃん  
孕んでさ  
お姫様になろうよ

ね?

ぜっ…

世に  
いやももも

おとなしくしてたら  
いいきになって…!

バツカじゃないの…!

誰があんたみたいなのと  
するもんですか…!

絶対にイヤ…っ!

キ

うわぁ…



キ

キ



見えないわね...

確かに...  
これで引き下がる  
ようには...



大声だして  
言うこと聞かせ  
ようとしても...

そうはいかない  
んだから...!



わかったわ...  
ただセックスは  
ダメ!

え...



ふざけるな!  
王子のボクに  
こんなことして  
タダで済むと  
思うなよ...!



その代わりに...

これで我慢して...



どお?  
セックスしてる  
みたいでしょ?

こんなにおっぱいの中で  
脈打っちゃって...

もう限界  
なんでしょ?

♡おっぱい♡  
♡ちゅ♡

ほら!  
いいのよ?

おっぱいの中に  
おもいつきり  
射精しなさい!

てる...!

う...  
う...

♡おっぱい♡  
♡ちゅ♡

おっぱい



おっぱい

おっぱいの中に  
すっごく量  
射してるぅ……♡

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい



おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

お姉ちゃん!

えっ……  
ちよっ……



偉そうなこと言っても  
結局まだ子供なんだから……

こんなにすぐ  
射精しちゃって……

いい?

もうわがまま  
言ったらダメよ……

おっぱい

おっぱい



まったく……

その日から……



決めた!

ボクお姉ちゃんのこと  
絶対お嫁さんにもらう!

え……

おっぱい

王子の行動は  
どんだんエスカレート  
して行き...

ダメよ...

そこは  
触っちゃ...っ

触るだけだから  
いいでしょ?

すごいよ  
お姉ちゃん!  
指とお口で  
セックスしてる  
みたいだ!

いい...?  
指だけよ...!!  
指以外は...  
入れちゃ...

オマンコはダメ  
だけど、喉でなら  
セックスしても  
いいよね?

ダメだから...っ  
あま...あま...  
あま...あま...

それでもリユートへの  
忠誠と想いから、最後の  
一線だけは守っていた...







お姉ちゃんがボクのお嫁さんになるって決心するまで...

ボク諦めないからね!

こんなこと...

こんな...

でも...

いけないわ...

いつまでも続けていたら...

開けますわ...

王様

王様...?

ねえ...?

リュートにいる?

王子のお守りを  
変えてもらえるように  
リュートに頼んでみよう...



はきッ

あーあーあー

あーあーあー

ぐわんぐわんぐわん

♡  
王様のおちんぽおつ♡  
♡♡♡  
スゴすぎですわあっ♡♡♡

♡  
あぁ、王様あ…♡  
♡  
王様の赤ちゃん♡  
♡  
孕ませて下さい♡♡♡  
♡  
私を…♡  
♡  
国ごと娶って♡  
♡  
下さる♡♡♡

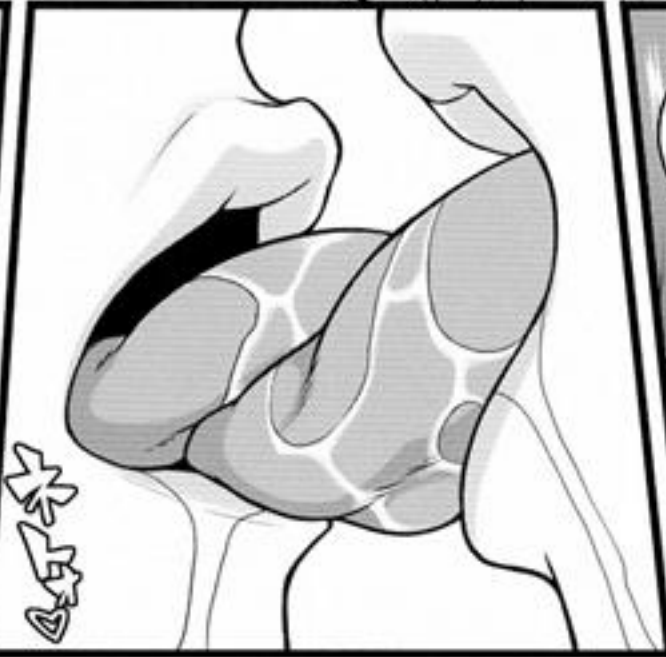
ぐわんぐわんぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん





ずっと  
ずっと...

これが欲しかった  
んだよね...?

んんん...

んんん

んんん

お姉ちゃん...?

んんん

おっ...

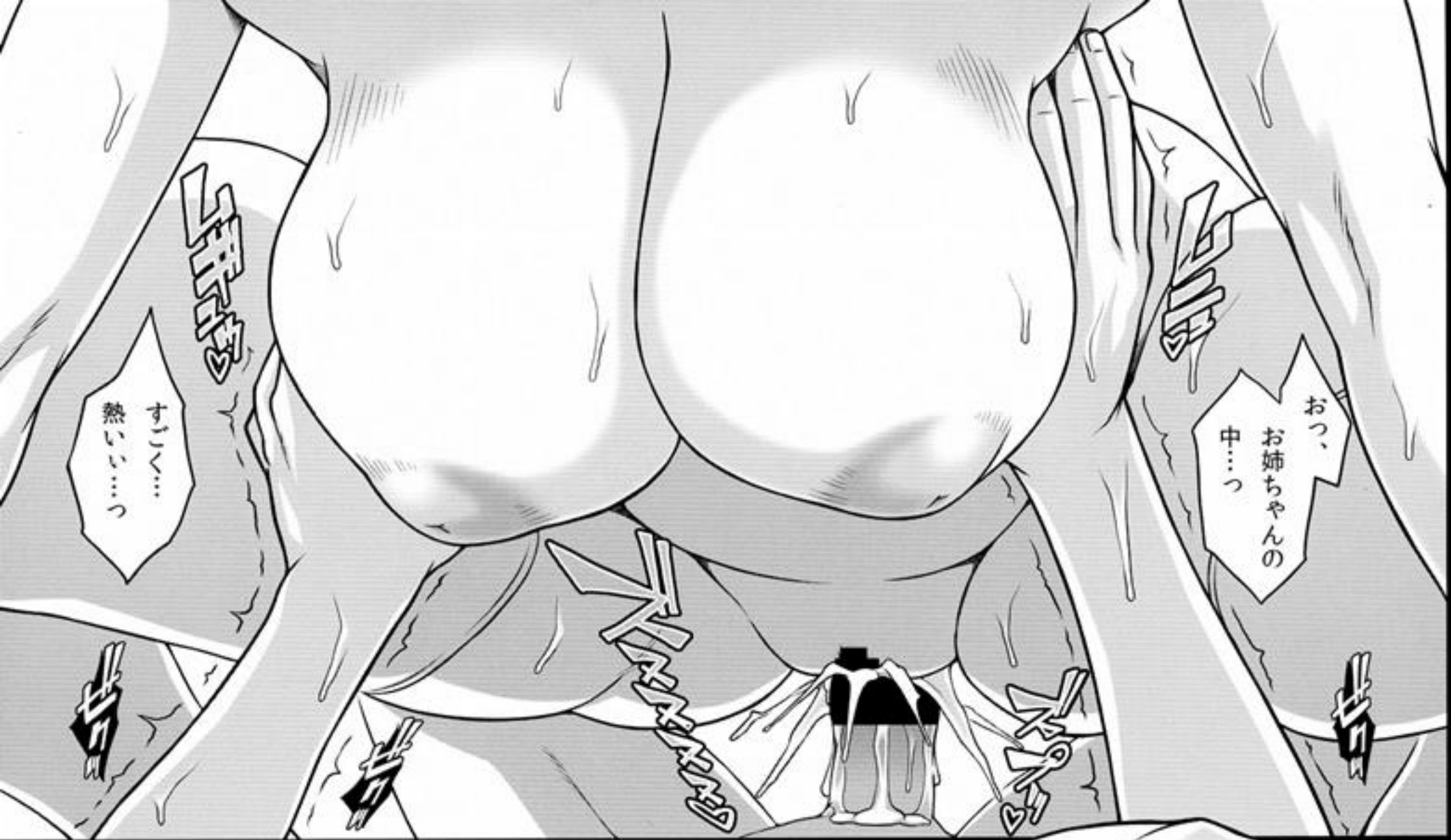
んんん...

今日は私の中に...

これじゃダメ

んんん







乳首も…  
乳首も…

乳首も…

乳首も…  
乳首も…  
乳首も…

乳首も…

乳首も…

乳首も…

乳首も…

乳首も…

乳首も…



恥ずかしい乳首、自分で  
勃起させちゃったあ♡

あ♡  
ちゅぽん♡

ちゅぽん♡

見て♡

ちゅぽん

両方勃起  
させられちゃう♡

ちゅぽん♡



ちゅぽん……♡

ちゅぽん……♡  
いいんだよ……♡

乳首もマンロも……♡

全部全部……♡

好きにしているから……♡

ちゅぽん♡

ちゅぽん♡



ほ、ほく…

せいじ…

いいよ…  
沢山出して…♡

私が…

孕んであげる  
から…♡♡

あ♡  
あ♡

沢山…

沢山  
ちようだい…!!

赤ちゃん  
孕んであげるから…!!

私の中に…精子  
沢山ちようだい…!!

いったい  
どうなっておるのだ…!!



王女が突然帰国するとは…  
私はなにも聞いておらぬぞ!  
こちらはすでにリユート国王との  
婚礼の準備を進めていたと  
言うのに…!!

それにアイシスは  
どこへ行ったのだ…?

王子のお守りを  
していたのだから  
何か知っておることが  
あれば聞きたいと  
言うのに…!!

まったく…  
どうなっておるのだ…!!





あら？

お待ちください  
王女様！

王女様！

お、



王女様！

王女様！

お待ち  
ください！



おやおや

これはこれは

大臣殿では

ございませぬか

どうなされたのです？

血相を変えられて…

いえ… その…

王女様が突然

ご帰国されると

聞きまして…

我々のほうに  
なにか不手際でも  
あったのかと…



ええ…

いつまで経っても  
乳離れできませんし…  
国王陛下亡き今  
いつも不安だった  
のですが…

まさか親が知らぬ間に  
あんなに成長しているとは…



そんな…

不手際なんて

とんでもない

リユート国王陛下には  
大変よくしていただき  
ましたわよ

ただ我々の王子に  
変化がありましたね…

へ…？

王子様ですか？

馬車の中を  
ご覧になって

まさかあの子が  
自分の力だけで  
あんなに素敵なお嫁さん  
を見つけるなんて…

わたくしも  
考えを改めさせ  
られましたわ…

国の未来も  
自分達で切り開いて  
いこうと…

ふふ…

それにしても  
若いって素敵ですわね

あんなに  
愛し合っちゃって…

それでは  
失礼いたしますわ

国王陛下には  
これからも良い  
同盟関係をと  
お伝えください

では  
御機嫌よう